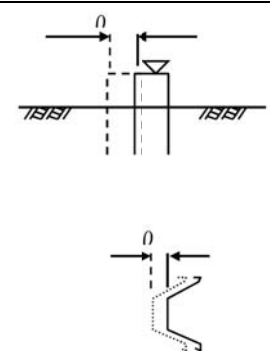
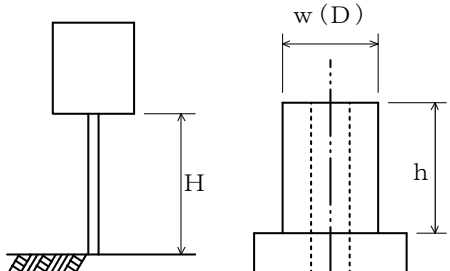
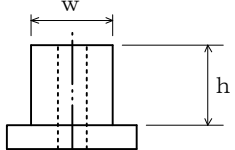
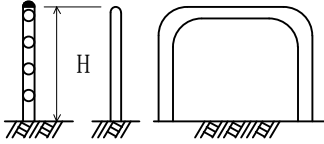
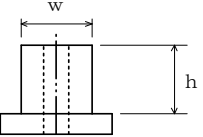
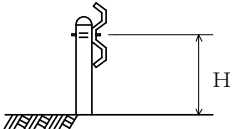
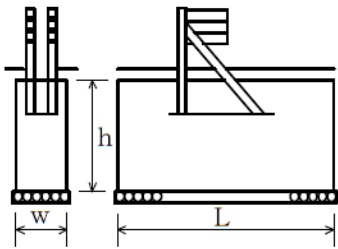
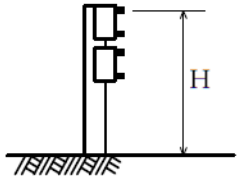
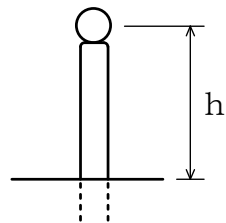
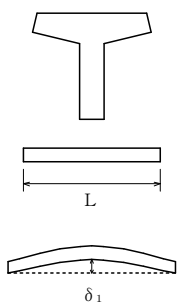
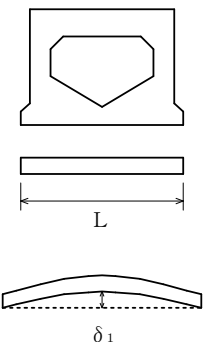
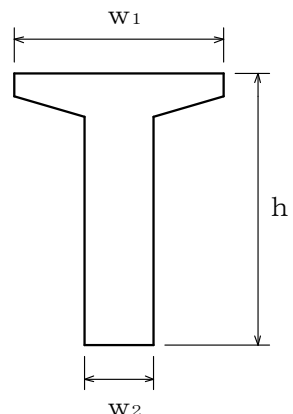


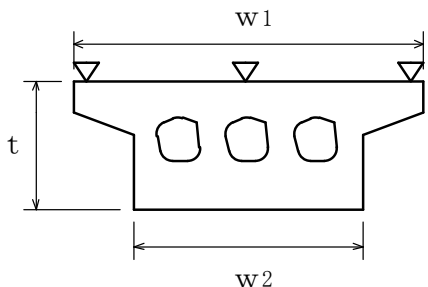
編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所
3	2	3			道路改良	幅 W_1	-12	片側延長 20m毎に 1 箇所 道路中心線からの幅	
						幅 W_2	-12	片側延長 20m毎に 1 箇所 道路中心線からの幅	
						幅 W_3	-25	片側延長 20m毎に 1 箇所	
					護岸工 流路工	幅 $W_1, W_2 \leq 3m$	-30	延長 40m又は測点毎に 1 箇所、40m未満の場 合は、1 施工箇所につき 2 箇所	
						幅 $3m < W_1, W_2$	-1%	延長 40m又は測点毎に 1 箇所、40m未満の場 合は、1 施工箇所につき 2 箇所	

章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	
3	2	3	4	矢板工〔指定仮設・任意仮設は除く〕 (鋼矢板) (軽量鋼矢板) (コンクリート矢板) (広幅鋼矢板) (可とう鋼矢板)	基 準 高 ∇	± 50	基準高は施工延長 40m (測点間隔 25m の場合は 50m) につき 1 箇所、延長 40m (又は 50m) 以下のものは 1 施工箇所につき 2 箇所。変位は、施工延長 20m (測点間隔 25m の場合は 25m) につき 1 箇所、延長 20m (又は 25m) 以下のものは 1 施工箇所につき 2 箇所。		
					根 入 長	設計値以上			
					変 位 l	100			
3	2	3	5	縁石工 (縁石・アスカープ)	延 長 L	-200	1 箇所 / 1 施工箇所		
3	2	3	6	小型標識工	設 置 高 さ H	設計値以上	1 箇所 / 1 基 基礎 1 基		
					基礎	幅 $w (D)$			-30
						高 さ h			-30
						根 入 れ 長			設計値以上

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	
3	2	3	7		防止柵工 (立入防止柵) (転落(横断)防止柵) (車止めポスト)	基	幅 w	-30	単独基礎 10 基につき 1 基、10 基以下のものは 2 基測定。測定箇所は 1 基につき 1 箇所測定。 1 箇所 / 1 施工箇所	 
						礎	高さ h	-30		
							パイプ取付高H	+30 -20		
3	2	3	8	1	路側防護柵工 (ガードレール)	基	幅 w	-30	1 箇所 / 施工延長 40m 40m以下のものは、2 箇所 / 1 施工箇所。 1 箇所 / 1 施工箇所	 
						礎	高さ h	-30		
							ビーム取付高H	+30 -20		
3	2	3	8	2	路側防護柵工 (ガードケーブル)	基	幅 w	-30	1 箇所 / 1 基礎毎 1 箇所 / 1 施工箇所	 
						礎	高さ h	-30		
							延長 L	-100		
							ケーブル取付高H	+30 -20		

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所
3	2	3	9		区画線工	厚 さ t (溶融式のみ)	設計値以上	各線種毎に、1箇所テストピースにより測定。	
						幅 w	設計値以上		
3	2	3	10		道路付属物工 (視線誘導標) (距離標)	高 さ h	±30	1箇所/10本 10本以下の場合は、2箇所測定。	
3	2	3	11		コンクリート面塗装工	塗 料 使 用 量	鋼道路橋塗装・防食便 覧Ⅱ-74「表-Ⅱ.5.5各 塗料の標準使用量と標 準膜厚」の標準使用量 以上。	塗装系ごとの塗装面積を算出・照査 して、各塗料の必要量を求め、塗付 作業の開始前に搬入量（充缶数） と、塗付作業終了時に使用量（空缶 数）を確認し、各々必要量以上であ ることを確認する。 1ロットの大きさは 500m ² とす る。	

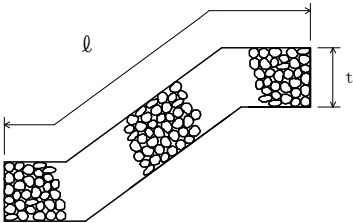
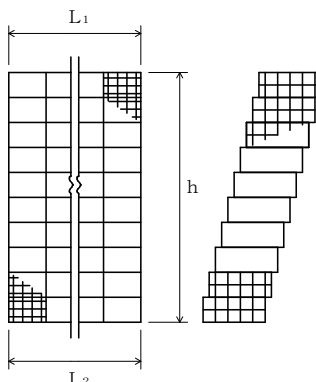
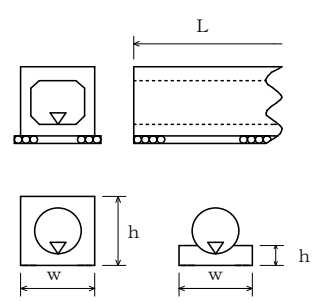
編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所
3	2	3	12	1	プレテンション桁製作工 (購入工) (けた橋)	桁長 L (m)	$\pm L/1000$	桁全数について測定。 橋桁のそりは中央の値とする。 なお、JIS マーク表示品を使用する 場合は、製造工場の発行する JIS に 基づく試験成績表に替えることが できる。	
						断面の外形寸法	± 5		
						橋桁のそり δ_1	± 8		
						横方向の曲がり δ_2	± 10		
3	2	3	12	2	プレテンション桁製作工 (購入工) (スラブ桁)	桁長 L (m)	$\pm 10 \cdots$ $L \leq 10m$ $\pm L/1000 \cdots$ $L > 10m$	桁全数について測定。 橋桁のそりは中央の値とする。 なお、JIS マーク表示品を使用する 場合は、製造工場の発行する JIS に 基づく試験成績表に替えることが できる。	
						断面の外形寸法	± 5		
						橋桁のそり δ_1	± 8		
						横方向の曲がり δ_2	± 10		
3	2	3	13	1	ポストテンション桁 製作工	幅 (上) w_1	+10 -5	桁全数について測定。 横方向タワミの測定は、プレスト レッシング後に測定。 桁断面寸法測定箇所は、両端部、中 央部の3箇所とする。 なお、JIS マーク表示品を使用する 場合は、製造工場の発行する JIS に 基づく試験成績表に替えることが できる。 ℓ : 支間長 (m)	
						幅 (下) w_2	± 5		
						高 さ h	+10 -5		
						桁 長 ℓ 支間長	$\ell < 15 \cdots \pm 10$ $\ell \geq 15 \cdots \pm (\ell - 5)$ かつ -30mm 以内		
						横方向最大タワミ	0.8ℓ		

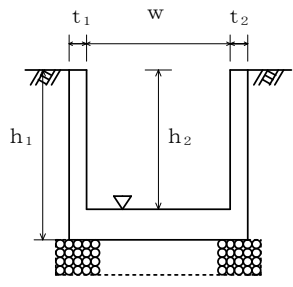
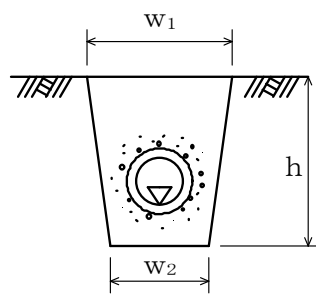
編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所
3	2	3	13	2	プレキャストセグメント桁 製作工（購入工）	桁 長 l	—	桁全数について測定。桁断面寸法測定箇所は、図面の寸法表示箇所で測定。	
						断面の外形寸法 (mm)	—		
3	2	3	14		プレキャストセグメント主 桁組立工	桁 長 l 支 間 長	$l < 15 \cdots \pm 10$ $l \geq 15 \cdots \pm (l - 5)$ かつ -30 mm以内	桁全数について測定。 横方向タワミの測定は、プレストレスリング後に測定。 桁断面寸法測定箇所は、両端部、中央部の3箇所とする。 l ：支間長 (m)	
						横方向最大タワミ	0.8 l		
3	2	3	15		PCホロースラブ製作工	基 準 高 ∇	± 20	桁全数について測定。 基準高は、1径間当たり2箇所（支点付近）で1箇所当たり両端と中央部の3点、幅及び厚さは1径間当たり両端と中央部の3箇所。 ※鉄筋の出来形管理基準については、第3編2-18-2床版工に準ずる。 l ：桁長 (m)	
						幅 w_1, w_2	-5 ~ +30		
						厚 さ t	-10 ~ +20		
						桁 長 l	$l < 15 \cdots \pm 10$ $l \geq 15 \cdots \pm (l - 5)$ かつ -30 mm以内		

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	
3	2	3	16	1	PC箱桁製作工	基 準 高	±20	桁全数について測定。 基準高は、1 径間当たり 2 箇所（支点付近）で1 箇所当たり両端と中央部の3点、幅及び厚さは1 径間当たり両端と中央部の3 箇所。 ※鉄筋の出来形管理基準については、第3編2-18-2床版工に準ずる。 ℓ：桁長（m）		
						幅（上） w ₁	-5～+30			
						幅（下） w ₂	-5～+30			
						内 空 幅 w ₃	±5			
						高 さ h ₁	-5～+10			
						内空高さ h ₂	-5～+10			
						桁 長 ℓ	ℓ < 15…±10 ℓ ≥ 15…±(ℓ-5) かつ-30mm以内			
3	2	3	16	2	PC押し箱桁製作工	幅（上） w ₁	-5～+30	桁全数について測定。 桁断面寸法測定箇所は、両端部、中央部の3箇所とする。 ※鉄筋の出来形管理基準については、第3編2-18-2床版工に準ずる。 ℓ：桁長（m）		
						幅（下） w ₂	-5～+30			
						内 空 幅 w ₃	±5			
						高 さ h ₁	-5～+10			
						内空高さ h ₂	-5～+10			
						桁 長 ℓ	ℓ < 15…±10 ℓ ≥ 15…±(ℓ-5) かつ-30mm以内			
3	2	3	17		根固めブロック工	基 準 高	±100	施工延長 40m（測点間隔 25mの場合は50m）につき1箇所、延長40m（又は50m）以下のものは1 施工箇所につき2箇所。 幅、厚さは40個につき1箇所測定。 1 施工箇所毎		
						乱 積				± t/2
						厚 さ t	-20			
						幅 w ₁ w ₂	層 積			-20
							乱 積			- t/2
						延 長 L ₁ L ₂	層 積			-200
							乱 積			- t/2

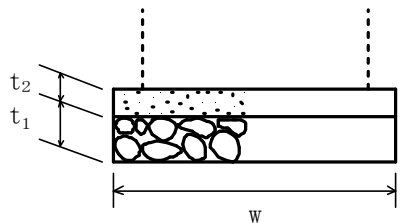
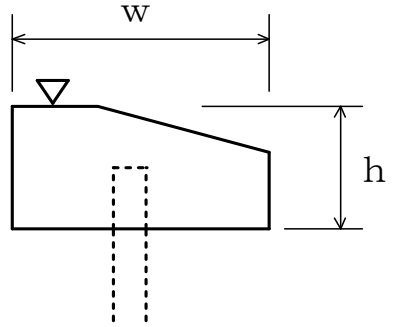
編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所
3	2	3	18		沈床工	基 準 高 ∇	±150	1組毎	
						幅 w	±300		
						延 長 L	-200		
3	2	3	19		捨石工	基 準 高 ∇	-100	施工延長 40m（測点間隔 25m の場合は 50m）につき 1 箇所、 延長 40m（又は 50m）以下の ものは 1 施工箇所につき 2 箇 所。	
						幅 w	-100		
						延 長 L	-200		
3	2	3	22		階段工	幅 w	-30	1回／1施工箇所	
						高 さ h	-30		
						長 さ L	-30		
						段 数	±0段		
3	2	3	24	1	伸縮装置工 (ゴムジョイント)	据 付 け 高 さ	舗装面に対し0～-2	両端及び中央部付近を測定。 据付け高さ：舗装面とゴムジョ イントの段差 仕上げ高さ：舗装面と後打ちコ ンクリートの段差 表面の凹凸：ゴムジョイントと 後打ちコンクリートの高低差	
						表 面 の 凹 凸	3		
						仕 上 げ 高 さ	舗装面に対し0～-2		

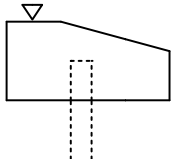
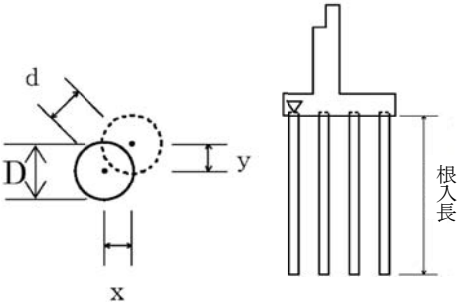
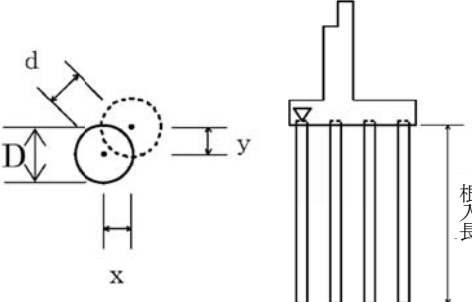
編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	
3	2	3	24	2	伸縮装置工 (鋼製フィンガージョイント)	高さ	据付け高さ	±3	高さについては車道端部、中央部各3点計9点。 縦方向及び横方向間隔は両端、中央部の計3点。	
							車線方向各点誤差の相対差	3		
						表面の凹凸	3			
						歯型板面の歯咬み合い部の高低差	2			
						縦方向間隔 W_1	±2			
						横方向間隔 W_2	±5			
						仕上げ高さ	舗装面に対し0~-2			
3	2	3	26	1	多自然型護岸工 (巨石張り、巨石積み)	基準高 ∇	±500	施工延長 40m (測点間隔 25m の場合は 50m) につき1箇所、延長 40m (又は 50m) 以下のものは1施工箇所につき2箇所。		
						法 長 l	-200			
						延 長 L	-200			
3	2	3	26	2	多自然型護岸工 (かごマット)	法 長 l	-100	施工延長 40m (測点間隔 25m の場合は 50m) につき1箇所、延長 40m (又は 50m) 以下のものは1施工箇所につき2箇所。		
						厚 さ t	-0.2 t			
						延 長 L	-200			

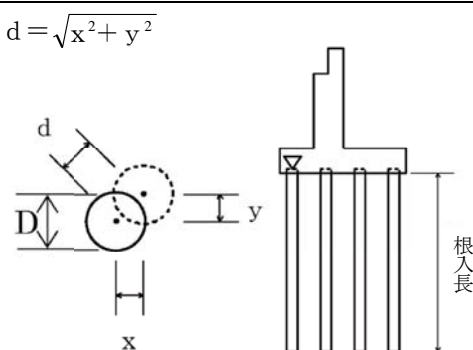
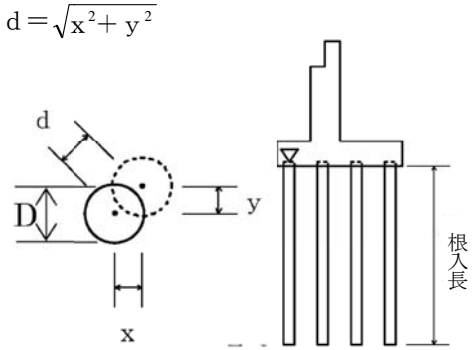
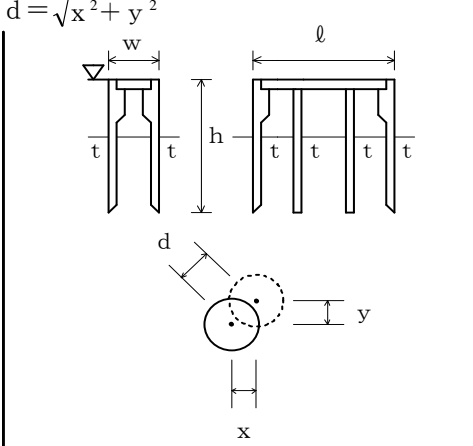
編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	
3	2	3	27	1	羽口工 (じゃかご)	法長 ℓ	$\ell < 3\text{m}$	-50	施工延長 40m (測点間隔 25mの場合 は 50m) につき 1 箇所、延長 40m (又は 50m) 以下のものは 1 施工箇所 につき 2 箇所。	
							$\ell \geq 3\text{m}$	-100		
						厚 さ t		-50		
3	2	3	27	2	羽口工 (ふとんかご、かご枠)	高 さ h		-100	施工延長 40m (測点間隔 25mの場合 は 50m) につき 1 箇所、延長 40m (又は 50m) 以下のものは 1 施工箇所 につき 2 箇所。	
						延 長 L_1, L_2		-200		
3	2	3	28		プレキャストカルバート 工 (プレキャストボックス 工) (プレキャストパイプ工)	基 準 高 ∇		± 30	施工延長 40m (測点間隔 25mの場合 は 50m) につき 1 箇所、施工延長 40 m (又は 50m) 以下のものは 1 施工箇 所につき 2 箇所。 ※印は、現場打部分のある場合。 1 施工箇所毎	
						※幅 w		-50		
						※高 さ h		-30		
						延 長 L		-200		

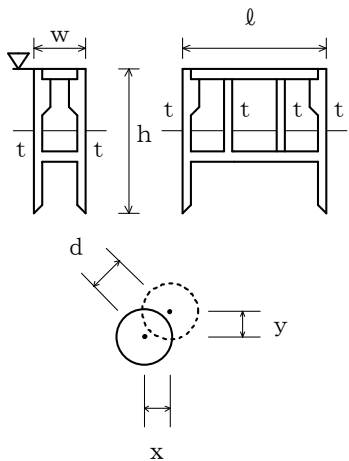
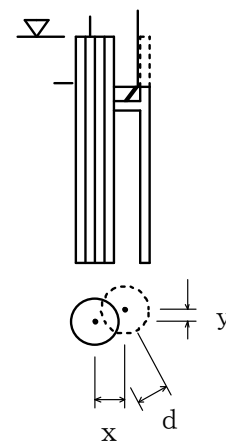
編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所
3	2	3	29	1	側溝工 (プレキャストU型側溝) (L型側溝工) (自由勾配側溝) (管渠)	基 準 高 ∇	± 30	施工延長 40m (測点間隔 25mの場合 は 50m) につき 1 箇所、施工延長 40 m (又は 50m) 以下のものは 1 施工箇 所につき 2 箇所。 1 箇所 / 1 施工箇所	
						延 長 L	-200		
3	2	3	29	2	側溝工 (場所打水路工)	基 準 高 ∇	± 30	施工延長 40m (測点間隔 25mの場合 は 50m) につき 1 箇所、施工延長 40 m (又は 50m) 以下のものは 1 施工箇 所につき 2 箇所。 1 施工箇所毎	
						厚 さ t_1, t_2	-20		
						幅 w	-30		
						高 さ h_1, h_2	-30		
						延 長 L	-200		
3	2	3	29	3	側溝工 (暗渠工)	基 準 高 ∇	± 30	施工延長 40m (測点間隔 25mの場合 は 50m) につき 1 箇所。 延長 40m (又は 50m) 以下のものは 1 施工につき 2 箇所。 1 施工箇所毎	
						幅 w_1, w_2	-50		
						深 さ h	-30		
						延 長 L	-200		

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所
3	2	3	30		集水桝工	基 準 高 ∇	± 30	1 箇所毎 ※は、現場打部分のある場合	
						※厚さ $t_1 \sim t_5$	-20		
						※幅 w_1, w_2	-30		
						※高さ h_1, h_2	-30		
3	2	3	31		現場塗装工	塗 膜 厚	<p>a. ロットの塗膜厚平均値は、目標塗膜厚合計値の90%以上。</p> <p>b. 測定値の最小値は、目標塗膜厚合計値の70%以上。</p> <p>c. 測定値の分布の標準偏差は、目標塗膜厚合計値の20%を超えない。ただし、測定値の平均値が目標塗膜厚合計値より大きい場合はこの限りではない。</p>	<p>塗装終了時に測定。</p> <p>1 ロットの大きさは500 m²とする。</p> <p>1 ロット当たりの測定数は25点とし、各点の測定は5回行い、その平均値をその点の測定値とする。</p>	

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所
3	2	4	1		一般事項 (切込砂利) (碎石基礎工) (割ぐり石基礎工) (基礎コンクリート)	幅 w	設計値以上	施工延長 40m (測点間隔 25mの場合 は 50m) につき 1 箇所、延長 40m (又は 50m) 以下のものは 1 施工箇所 につき 2 箇所。 ただし、基準高の測定については、基 礎コンクリートのみとする。	
						厚さ t ₁ , t ₂	-30		
						延 長 L	各構造物の規格値によ る		
						基 準 高 ▽	±30		
3	2	4	3	1	基礎工 (護岸) (現場打)	基 準 高 ▽	±30	施工延長 40m (測点間隔 25mの場合 は 50m) につき 1 箇所、延長 40m (又は 50m) 以下のものは 1 施工箇所 につき 2 箇所。	
						幅 w	-30		
						高 さ h	-30		
						延 長 L	-200		

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所
3	2	4	3	2	基礎工（護岸） （プレキャスト）	基準高 ▽	±30	施工延長 40m（測点間隔 25m の場合は 50m）につき 1 箇所、 延長 40m（又は 50m）以下の ものは 1 施工箇所につき 2 箇 所。	
						延 長 L	-200		
3	2	4	4	1	既製杭工 （既製コンクリート杭） （鋼管杭） （H鋼杭）	基準高 ▽	±50	全数について杭中心で測定。	$d = \sqrt{x^2 + y^2}$ 
						根 入 長	設計値以上		
						偏 心 量 d	D/4 以内かつ 100 以内		
						傾 斜	1/100 以内		
3	2	4	4	2	既製杭工 （鋼管ソイルセメント杭）	基準高 ▽	±50	全数について杭中心で測定。	$d = \sqrt{x^2 + y^2}$ 
						根 入 長	設計値以上		
						偏 心 量 d	100 以内		
						傾 斜	1/100 以内		
						杭 径 D	設計値以上		

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所
3	2	4	5		場所打杭工	基 準 高 ▽	±50	全数について杭中心で測定。	$d = \sqrt{x^2 + y^2}$ 
						根 入 長	設計値以上		
						偏 心 量 d	100 以内		
						傾 斜	1/100 以内		
						杭 径 D	{設計径 (公称径) - 30} 以上		
3	2	4	6		深礎工	基 準 高 ▽	±50	全数について杭中心で測定。	$d = \sqrt{x^2 + y^2}$ 
						根 入 長	設計値以上		
						偏 心 量 d	150 以内		
						傾 斜	1/50 以内		
3	2	4	7		オープンケーソン基礎工	基 準 高 ▽	±100	壁厚、幅、高さ、長さ、偏心量については各打設ロットごとに測定。	$d = \sqrt{x^2 + y^2}$ 
						ケーソンの長さ l	-50		
						ケーソンの幅 w	-50		
						ケーソンの高さ h	-100		
						ケーソンの壁厚 t	-20		
						偏 心 量 d	300 以内		

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所
3	2	4	8		ニューマチックケーソン 基礎工	基 準 高 ▽	±100	壁厚、幅、高さ、長さ、偏心量については各打設ロットごとに測定。	$d = \sqrt{x^2 + y^2}$ 
						ケーソンの長さ l	-50		
						ケーソンの幅 w	-50		
						ケーソンの高さ h	-100		
						ケーソンの壁厚 t	-20		
						偏 心 量 d	300 以内		
3	2	4	9		鋼管矢板基礎工	基 準 高 ▽	±100	基準高は、全数を測定。 偏心量は、1基ごとに測定。	$d = \sqrt{x^2 + y^2}$ 
						根 入 長	設計値以上		
						偏 心 量 d	300 以内		

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	
3	2	5	3	1	コンクリートブロック工 (コンクリートブロック積) (コンクリートブロック張り)	基準高 ∇	± 50	施工延長 40m (測点間隔 25m の場合は 50m) につき 1 箇 所、延長 40m (又は 50m) 以 下のものは 1 施工箇所につき 2 箇所。厚さは上端部及び下 端部の 2 箇所を測定。		
						法 長 l	$l < 3\text{m}$			-50
							$l \geq 3\text{m}$			-100
						厚さ (ブロック積張) t_1				-50
						厚さ (裏込) t_2				-50
						延 長 L				-200
3	2	5	3	2	コンクリートブロック工 (連節ブロック張り)	基準高 ∇	± 50	施工延長 40m (測点間隔 25m の場合は 50m) につき 1 箇 所、延長 40m (又は 50m) 以 下のものは 1 施工箇所につき 2 箇所。		
						法 長 l				-100
						延長 L_1, L_2				-200

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	
3	2	5	3	3	コンクリートブロック工 (天端保護ブロック)	基 準 高 ∇	± 50	施工延長 40m (測点間隔 25m の場合は 50m) につき 1 箇 所、延長 40m (又は 50m) 以 下のものは 1 施工箇所につき 2 箇所。		
						幅 w	-100			
						延 長 L	-200			
3	2	5	4		緑化ブロック工	基 準 高 ∇	± 50	施工延長 40m (測点間隔 25m の場合は 50m) につき 1 箇 所、延長 40m (又は 50m) 以 下のものは 1 施工箇所につき 2 箇所。厚さは上端部及び下 端部の 2 箇所を測定。		
						法 長 l	$l < 3\text{m}$			-50
							$l \geq 3\text{m}$			-100
							厚さ (ブロック) t_1			-50
							厚さ (裏込) t_2			-50
							延 長 L			-200
3	2	5	5		石積 (張) 工	基 準 高 ∇	± 50	施工延長 40m (測点間隔 25m の場合は 50m) につき 1 箇 所、延長 40m (又は 50m) 以 下のものは 1 施工箇所につき 2 箇所。厚さは上端部及び下 端部の 2 箇所を測定。		
						法 長 l	$l < 3\text{m}$			-50
							$l \geq 3\text{m}$			-100
							厚さ (石積・張) t_1			-50
							厚さ (裏込) t_2			-50
							延 長 L			-200

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所
3	2	6	7	1	アスファルト舗装工 (下層路盤工)	基準高▽	±40	基準高は延長 40m毎に1箇所の割とし、道路中心線および端部で測定。厚さは40m毎に1箇所を掘り起こして測定。幅は、延長 40m毎に1箇所の割に測定。	
						厚 さ	-45		
						幅	-50		
3	2	6	7	2	アスファルト舗装工 (上層路盤工) 粒度調整路盤工	厚 さ	-25	幅は、延長 40m毎に1箇所の割とし、厚さは40m毎に1箇所を掘り起こして測定。	
						幅	-50		
3	2	6	7	3	アスファルト舗装工 (上層路盤工) セメント(石灰)安定 処理工	厚 さ	-25	幅は、延長 40m毎に1箇所の割とし、厚さは、1,000m ² に1個(ただし1工事2個以上。1工事が200m ² 未満の場合は1個以上。)の割でコア一を採取もしくは掘り起こして測定。	コア採取について 橋面舗装等でコア採取により床版等に損傷を与える恐れのある場合は、他の方法によることが出来る。
						幅	-50		
3	2	6	7	4	アスファルト舗装工 (加熱アスファルト安 定処理工)	厚 さ	-15	幅は、延長 40m毎に1箇所の割とし、厚さは、1,000m ² に1個(ただし1工事2個以上。1工事が200m ² 未満の場合は1個以上。)の割でコア一を採取して測定。	コア採取について 橋面舗装等でコア採取により床版等に損傷を与える恐れのある場合は、他の方法によることが出来る。
						幅	-50		

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所
3	2	6	7	5	アスファルト舗装工 (基層工)	厚 さ	-9	幅は、延長 40m毎に1箇所の割とし、厚さは、1,000m ² に1個（ただし1工事2個以上。1工事が200m ² 未満の場合は1個以上。）の割でコアーを採取して測定。	コアー採取について 橋面舗装等でコアー採取により床版等に損傷を与える恐れのある場合は、他の方法によることが出来る。
						幅	-25		
3	2	6	7	6	アスファルト舗装工 (表層工)	厚 さ	-7	幅、基準高は延長 40m毎に1箇所の割とし、厚さは、1,000m ² に1個（ただし1工事2個以上。1工事が200m ² 未満の場合は1個以上。）の割でコアーを採取もしくは掘り起こして測定。基準高は道路中心線及び両端部で測定。平坦性は各車線毎に車線を中心から1m離れた1測線を設けて全延長で測定。測量線長が100m以上の場合、路面の平坦性試験結果を作成する。	コアー採取について 橋面舗装等でコアー採取により床版等に損傷を与える恐れのある場合は、他の方法によることが出来る。 維持工事においては、平坦性の項目を省略することが出来る。
						幅	-25		
						基準高▽	±30		
						平 坦 性	3mプロフィールメーター (σ)2.4mm以下 直読式(足付き) (σ)1.75mm以下		
3	2	6	8	1	半たわみ性舗装工 (下層路盤工)	基準高▽	±40	基準高は延長 40m毎に1箇所の割とし、道路中心線および端部で測定。厚さは40m毎に1箇所を掘り起こして測定。幅は、延長 40m毎に1箇所の割に測定。	
						厚 さ	-45		
						幅	-50		
3	2	6	8	2	半たわみ性舗装工 (上層路盤工) 粒度調整路盤工	厚 さ	-25	幅は、延長 40m毎に1箇所の割とし、厚さは40m毎に1箇所を掘り起こして測定。	
						幅	-50		

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所
3	2	6	8	3	半たわみ性舗装工 (上層路盤工) セメント(石灰)安定処理工	厚 さ	-25	幅は、延長 40m毎に1箇所の割とし、厚さは、1,000m ² に1個(ただし1工事2個以上。1工事が200m ² 未満の場合は1個以上。)の割でコアーを採取もしくは掘り起こして測定。	コアー採取について 橋面舗装等でコアー採取により床版等に損傷を与える恐れのある場合は、他の方法によることが出来る。 維持工事においては、平坦性の項目を省略することが出来る。
						幅	-50		
3	2	6	8	4	半たわみ性舗装工 (加熱アスファルト安定処理工)	厚 さ	-15	幅は、延長 40m毎に1箇所の割とし、厚さは、1,000m ² に1個(ただし1工事2個以上。1工事が200m ² 未満の場合は1個以上。)の割でコアーを採取して測定。	コアー採取について 橋面舗装等でコアー採取により床版等に損傷を与える恐れのある場合は、他の方法によることが出来る。 維持工事においては、平坦性の項目を省略することが出来る。
						幅	-50		
3	2	6	8	5	半たわみ性舗装工 (基層工)	厚 さ	-9	幅は、延長 40m毎に1箇所の割とし、厚さは、1,000m ² に1個(ただし1工事2個以上。1工事が200m ² 未満の場合は1個以上。)の割でコアーを採取して測定。	コアー採取について 橋面舗装等でコアー採取により床版等に損傷を与える恐れのある場合は、他の方法によることが出来る。 維持工事においては、平坦性の項目を省略することが出来る。
						幅	-25		
3	2	6	8	6	半たわみ性舗装工 (表層工)	厚 さ	-7	幅、基準高は延長 40m毎に1箇所の割とし、厚さは、1,000m ² に1個(ただし1工事2個以上。1工事が200m ² 未満の場合は1個以上。)の割でコアーを採取して測定。基準高は道路中心線及び両端部で測定。平坦性は各車線毎に車線の中心から1m離れた1測線を設けて全延長で測定。測量線長が100m以上の場合、路面の平坦性試験結果を作成する。	コアー採取について 橋面舗装等でコアー採取により床版等に損傷を与える恐れのある場合は、他の方法によることが出来る。 維持工事においては、平坦性の項目を省略することが出来る。
						幅	-25		
						平 坦 性	3mプロファイル(σ)2.4mm以下 直読式(足付き) (σ)1.75mm以下		
						基準高▽	±30		

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所
3 土 木 工 事 共 通 編	2 一 般 施 工	6 一 般 舗 装 工	9	1	排水性舗装工 (下層路盤工)	基準高▽	±40	基準高は延長 40m毎に1箇所の割とし、道路中心線および端部で測定。厚さは 40m毎に1箇所を掘り起こして測定。幅は、延長 40m毎に1箇所の割に測定。	コア採取について 橋面舗装等でコア採取により床版等に損傷を与える恐れのある場合は、他の方法によることが出来る。 維持工事においては、平坦性の項目を省略することが出来る。
						厚 さ	-45		
						幅	-50		
3 土 木 工 事 共 通 編	2 一 般 施 工	6 一 般 舗 装 工	9	2	排水性舗装工 (上層路盤工) 粒度調整路盤工	厚 さ	-25	幅は、延長 40m毎に1箇所の割とし、厚さは 40m毎に1箇所を掘り起こして測定。	コア採取について 橋面舗装等でコア採取により床版等に損傷を与える恐れのある場合は、他の方法によることが出来る。 維持工事においては、平坦性の項目を省略することが出来る。
						幅	-50		
3 土 木 工 事 共 通 編	2 一 般 施 工	6 一 般 舗 装 工	9	3	排水性舗装工 (上層路盤工) セメント(石灰)安定処理工	厚 さ	-25	幅は、延長 40m毎に1箇所の割とし、厚さは、1,000m ² に1個(ただし1工事2個以上。1工事が200m ² 未満の場合は1個以上。)の割でコアを採取もしくは掘り起こして測定。	コア採取について 橋面舗装等でコア採取により床版等に損傷を与える恐れのある場合は、他の方法によることが出来る。 維持工事においては、平坦性の項目を省略することが出来る。
						幅	-50		
3 土 木 工 事 共 通 編	2 一 般 施 工	6 一 般 舗 装 工	9	4	排水性舗装工 (加熱アスファルト安定処理工)	厚 さ	-15	幅は、延長 40m毎に1箇所の割とし、厚さは、1,000m ² に1個(ただし1工事2個以上。1工事が200m ² 未満の場合は1個以上。)の割でコアを採取して測定。	コア採取について 橋面舗装等でコア採取により床版等に損傷を与える恐れのある場合は、他の方法によることが出来る。 維持工事においては、平坦性の項目を省略することが出来る。
						幅	-50		

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	
3	2	6	9	5	排水性舗装工 (基層工)	厚 さ	-9	幅は、延長 40m毎に1箇所の割とし、厚さは、1,000 m ² に1個（ただし1工事2個以上。1工事が200m ² 未満の場合は1個以上。）の割でコアーを採取して測定。	コアー採取について 橋面舗装等でコアー採取により床版等に損傷を与える恐れのある場合は、他の方法によることが出来る。 維持工事においては、平坦性の項目を省略することが出来る。	
						幅	-25			
3	2	6	9	6	排水性舗装工 (表層工)	厚 さ	-7	幅、基準高は延長 40m毎に1箇所の割とし、厚さは、1,000m ² に1個（ただし1工事2個以上。1工事が200m ² 未満の場合は1個以上。）の割でコアーを採取して測定。基準高は道路中心線及び両端部で測定。平坦性は各車線毎に車線の中心から1m離れた1測線を設けて全延長で測定。測量線長が100m以上の場合、路面の平坦性試験結果を作成する。	コアー採取について 橋面舗装等でコアー採取により床版等に損傷を与える恐れのある場合は、他の方法によることが出来る。 維持工事においては、平坦性の項目を省略することが出来る。	
						幅	-25			
						平 坦 性	3mプロファイルメーター (σ)2.4mm以下 直読式(足付き) (σ)1.75mm以下			
						基準高▽	±30			
3	2	6	10	1	透水性舗装工 (路盤工)	基準高▽	±50	基準高は片側延長 40m毎に1箇所の割で測定。 厚さは、片側延長 100m毎に1箇所掘り起こして測定。 幅は、片側延長 40m毎に1箇所測定。 ※歩道舗装に適用する。		
						厚 さ	t < 15cm			-30
							t ≥ 15cm			-45
						幅	-100			
3	2	6	10	2	透水性舗装工 (表層工)	基準高▽	±30	基準高は片側延長 40m毎に1箇所の割で測定。 幅は、片側延長 40m毎に1箇所測定。 厚さは、片側延長 100m毎に1箇所（ただし1工事2箇所以上）コアーを採取して測定。 ※歩道舗装に適用する。		
						厚 さ	-9			
						幅	-25			

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所
3	2	6	11	1	グースアスファルト舗装工 (加熱アスファルト安定処理工)	厚 さ	-15	幅は、延長 40m毎に1箇所の割とし、厚さは、1,000m ² に1個(ただし1工事2個以上。1工事が 200m ² 未満の場合は1個以上。)の割でコアーを採取して測定。	コアー採取について 橋面舗装等でコアー採取により床版等に損傷を与える恐れのある場合は、他の方法によることが出来る。 維持工事においては、平坦性の項目を省略することが出来る。
						幅	-50		
3	2	6	11	2	グースアスファルト舗装工 (基層工)	厚 さ	-9	幅は、延長 40m毎に1箇所の割とし、厚さは、1,000m ² に1個(ただし1工事2個以上。1工事が 200m ² 未満の場合は1個以上。)の割でコアーを採取して測定。	コアー採取について 橋面舗装等でコアー採取により床版等に損傷を与える恐れのある場合は、他の方法によることが出来る。 維持工事においては、平坦性の項目を省略することが出来る。
						幅	-25		
3	2	6	11	3	グースアスファルト舗装工 (表層工)	厚 さ	-7	幅、基準高は延長 40m毎に1箇所の割とし、厚さは、1,000m ² に1個(ただし1工事2個以上。1工事が 200m ² 未満の場合は1個以上。)の割でコアーを採取して測定。基準高は道路中心線及び両端部で測定。平坦性は各車線毎に車線の中心から1m離れた1測線を設けて全延長で測定。測量線長が100m以上の場合、路面の平坦性試験結果を作成する。	コアー採取について 橋面舗装等でコアー採取により床版等に損傷を与える恐れのある場合は、他の方法によることが出来る。 維持工事においては、平坦性の項目を省略することが出来る。
						幅	-25		
						平 坦 性	3mプロフィールメーター (σ)2.4mm以下 直読式(足付き) (σ)1.75mm以下		
						基準高▽	±30		
3	2	6	12	1	コンクリート舗装工 (下層路盤工)	基準高▽	±40	基準高は延長 40m毎に1箇所の割とし、道路中心線および端部で測定。厚さは 40m毎に1箇所を掘り起こして測定。幅は、延長 40m毎に1箇所の割に測定。	コアー採取について 橋面舗装等でコアー採取により床版等に損傷を与える恐れのある場合は、他の方法によることが出来る。
						厚 さ	-45		
						幅	-50		

編 章 節 条 枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所
3 2 6 12 2	3 土 木 工 事 共 通 2 一 般 施 工 6 一 般 舗 装 工	厚 さ	-25	幅は、延長 40m毎に1箇所の割とし、厚さは 40m毎に1箇所を掘り起こして測定。	コア採取について 橋面舗装等でコア採取により床版等に損傷を与える恐れのある場合は、他の方法によることが出来る。
		幅	-50		
3 2 6 12 3	3 土 木 工 事 共 通 2 一 般 施 工 6 一 般 舗 装 工	厚 さ	-25	幅は、延長 40m毎に1箇所の割とし、厚さは、1,000m ² に1個（ただし1工事2個以上。1工事が200m ² 未満の場合は1個以上。）の割でコアを採取もしくは掘り起こして測定。	コア採取について 橋面舗装等でコア採取により床版等に損傷を与える恐れのある場合は、他の方法によることが出来る。
		幅	-50		
3 2 6 12 4	3 土 木 工 事 共 通 2 一 般 施 工 6 一 般 舗 装 工	厚 さ	-9	幅は、延長 40m毎に1箇所の割とし、厚さは、1,000m ² に1個（ただし1工事2個以上。1工事が200m ² 未満の場合は1個以上。）の割でコアを採取して測定。	コア採取について 橋面舗装等でコア採取により床版等に損傷を与える恐れのある場合は、他の方法によることが出来る。
		幅	-25		

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所
3	2	6	12	5	コンクリート舗装工 (コンクリート舗装版工)	厚 さ	—10	厚さは各車線の中心付近で型枠据付後各車線 40m毎に水準又はレベルにより1測線当たり横断方向に3箇所以上測定。幅、基準高は延長 40m毎に1箇所の割で測定。基準高は道路中心線及び両端部で測定。平坦性は各車線毎に版縁から1m離れた1測線を設けて全延長で測定。測量線長が100m以上の場合、路面の平坦性試験結果を作成する。	維持工事においては、平坦性の項目を省略することが出来る。
						幅	—25		
						平 坦 性	コンクリートの硬化後3mプロフィールメーターにより機械舗設の場合(σ)2.4mm以下 人力舗設の場合(σ)3mm以下		
						基準高▽	±30		
						目地段差	±2	隣接する各目地に対して、道路中心線及び端部で測定。	
3	2	6	12	6	コンクリート舗装工 (転圧コンクリート版工) 下層路盤工	基準高▽	±40	基準高は延長 40m毎に1箇所の割とし、道路中心線および端部で測定。厚さは40m毎に1箇所を掘り起こして測定。幅は、延長 40m毎に1箇所の割に測定。	
						厚 さ	—45		
						幅	—50		
3	2	6	12	7	コンクリート舗装工 (転圧コンクリート版工) 粒度調整路盤工	厚 さ	—25	幅は、延長 40m毎に1箇所の割とし、厚さは40m毎に1箇所を掘り起こして測定。	
						幅	—50		

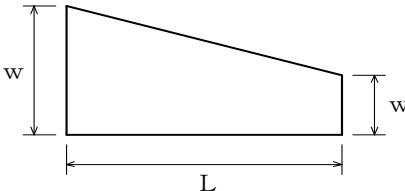
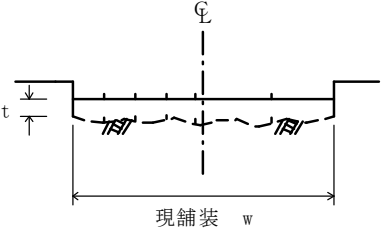
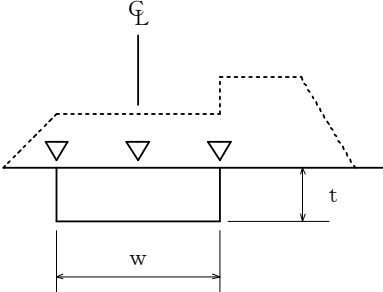
単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所
3	2	6	12	8	コンクリート舗装工 (転圧コンクリート版工) セメント(石灰・瀝青)安定処理工	厚 さ	-25	幅は、延長 40m 毎に 1 箇所割とし、厚さは、1,000m ² に 1 個(ただし 1 工事 2 個以上。1 工事が 200m ² 未満の場合は 1 個以上。)の割でコアーを採取もしくは掘り起こして測定。	コアー採取について 橋面舗装等でコアー採取により床版等に損傷を与える恐れのある場合は、他の方法によることが出来る。
						幅	-50		
3	2	6	12	9	コンクリート舗装工 (転圧コンクリート版工) アスファルト中間層	厚 さ	-9	幅は、延長 40m 毎に 1 箇所割とし、厚さは、1,000m ² に 1 個(ただし 1 工事 2 個以上。1 工事が 200m ² 未満の場合は 1 個以上。)の割でコアーを採取して測定。	コアー採取について 橋面舗装等でコアー採取により床版等に損傷を与える恐れのある場合は、他の方法によることが出来る。
						幅	-25		
3	2	6	12	10	コンクリート舗装工 (転圧コンクリート版工)	厚 さ	-15	厚さは各車線の中心付近で型枠据付後各車線 40m 毎に水糸又はレベルにより 1 測線当たり横断方向に 3 箇所以上測定。幅、基準高は延長 40m 毎に 1 箇所割で測定。基準高は道路中心線及び両端部で測定。平坦性は各車線毎に版縁から 1m 離れた 1 測線を設けて全延長で測定。測量線長が 100m 以上の場合、路面の平坦性試験結果を作成する。	維持工事においては、平坦性の項目を省略することが出来る。
						幅	-35		
						平 坦 性	転圧コンクリートの硬化後、3m プロフィールメータにより(σ)2.4mm 以下。		
						基準高▽	±30		
						目地段差	±2		

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所
3	2	6	13	1	薄層カラー舗装工 (下層路盤工)	基準高▽	±40	基準高は延長 40m毎に1箇所の割とし、道路中心線および端部で測定。厚さは40m毎に1箇所を掘り起こして測定。幅は、延長 40m毎に1箇所の割に測定。	
						厚 さ	-45		
						幅	-50		
3	2	6	13	2	薄層カラー舗装工 (上層路盤工) 粒度調整路盤工	厚 さ	-25	幅は、延長 40m毎に1箇所の割とし、厚さは40m毎に1箇所を掘り起こして測定。	
						幅	-50		
3	2	6	13	3	薄層カラー舗装工 (上層路盤工) セメント(石灰)安定 処理工	厚 さ	-25	幅は、延長 40m毎に1箇所の割とし、厚さは、1,000m ² に1個(ただし1工事2個以上。1工事が200m ² 未満の場合は1個以上。)の割でコアーを採取もしくは掘り起こして測定。	コアー採取について 橋面舗装等でコアー採取により床版等に損傷を与える恐れのある場合は、他の方法によることが出来る。
						幅	-50		
3	2	6	13	4	薄層カラー舗装工 (加熱アスファルト安定 処理工)	厚 さ	-15	幅は、延長 40m毎に1箇所の割とし、厚さは、1,000m ² に1個(ただし1工事2個以上。1工事が200m ² 未満の場合は1個以上。)の割でコアーを採取して測定。	コアー採取について 橋面舗装等でコアー採取により床版等に損傷を与える恐れのある場合は、他の方法によることが出来る。
						幅	-50		

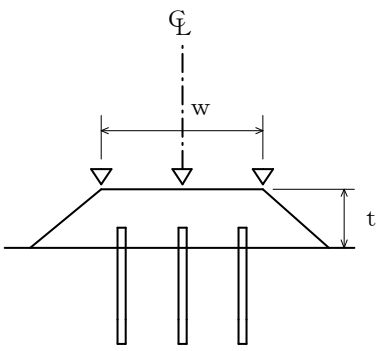
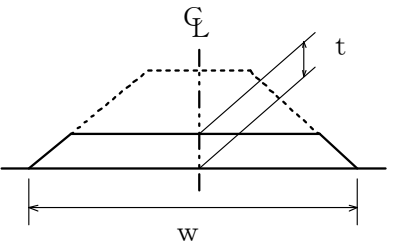
編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所
3	2	6	13	5	薄層カラー舗装工 (基層工)	厚 さ	-9	幅は、延長 40m毎に1箇所の割とし、厚さは、1,000m ² に1個(ただし1工事2個以上。1工事が200m ² 未満の場合は1個以上。)の割でコア一を採取して測定。	コア一採取について 橋面舗装等でコア一採取により床版等に損傷を与える恐れのある場合は、他の方法によることが出来る。
						幅	-25		
3	2	6	14	1	ブロック舗装工 (下層路盤工)	基準高▽	±40	基準高は延長 40m毎に1箇所の割とし、道路中心線および端部で測定。厚さは40m毎に1箇所を掘り起こして測定。幅は、延長 40m毎に1箇所の割に測定。	
						厚さ	-45		
						幅	-50		
3	2	6	14	2	ブロック舗装工 (上層路盤工) 粒度調整路盤工	厚 さ	-25	幅は、延長 40m毎に1箇所の割とし、厚さは40m毎に1箇所を掘り起こして測定。	
						幅	-50		
3	2	6	14	3	ブロック舗装工 (上層路盤工) セメント(石灰) 安定処理工	厚 さ	-25	幅は、延長 40m毎に1箇所の割とし、厚さは、1,000m ² に1個(ただし1工事2個以上。1工事が200m ² 未満の場合は1個以上。)の割でコア一を採取もしくは掘り起こして測定。	コア一採取について 橋面舗装等でコア一採取により床版等に損傷を与える恐れのある場合は、他の方法によることが出来る。
						幅	-50		

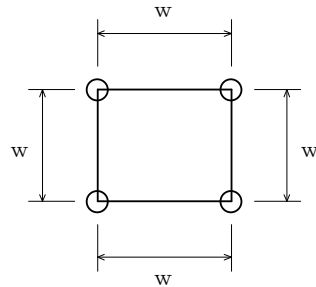
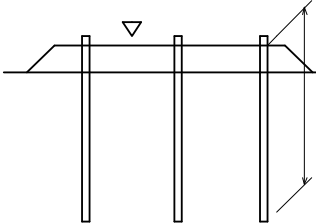
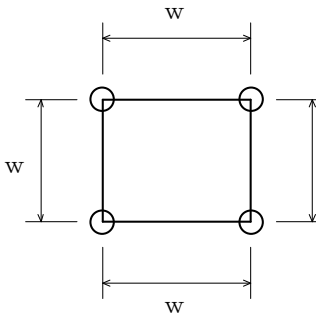
編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	
3	2	6	14	4	ブロック舗装工 (加熱アスファルト安定 処理工)	厚 さ	-15	幅は、延長 40m毎に 1 箇所の割と し、厚さは、1,000m ² に 1 個 (ただ し 1 工事 2 個以上。1 工事が 200m ² 未満の場合は 1 個以上。) の割でコア ーを採取して測定。	コアー採取について 橋面舗装等でコアー採取により床版等 に損傷を与える恐れのある場合は、他 の方法によることが出来る。	
						幅	-50			
3	2	6	14	5	ブロック舗装工 (基層工)	厚 さ	-9	幅は、延長 40m毎に 1 箇所の割と し、厚さは、1,000m ² に 1 個 (ただ し 1 工事 2 個以上。1 工事が 200m ² 未満の場合は 1 個以上。) の割でコア ーを採取して測定。	コアー採取について 橋面舗装等でコアー採取により床版等 に損傷を与える恐れのある場合は、他 の方法によることが出来る。	
						幅	-25			
3	2	6	15		路面切削工	厚 さ t	個々の測定値	-7	厚さは 40m毎に現舗装高と切削後の 基準高の差で算出する。また、平均の 測定値は、1 断面における測定値を合 計し平均を算出する。 測定点は車道中心線、車道端及びその 中心とする。 延長 40m未満の場合は、2 箇所/施 工箇所とする。 断面状況で、間隔、測点数を変えるこ とができる。 測定方法は自動横断測定法によるこ とができる。	
							平均の測定値	-2		
						幅 w	-25			

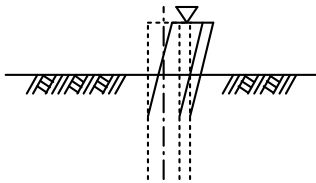
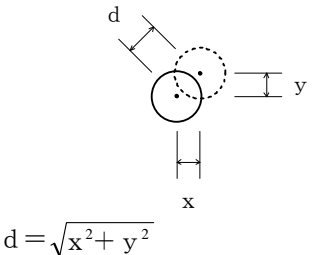
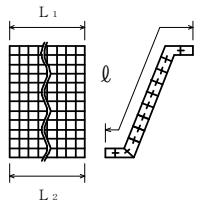
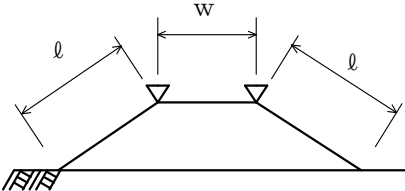
編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	
3	2	6	16		舗装打換え工	路盤工	幅 w	-50	各層毎1箇所／1施工箇所	
							延長L	-100		
							厚さt	該当工種		
						舗設工	幅 w	-25		
							延長L	-100		
							厚さt	該当工種		
3	2	6	17		オーバーレイ工	厚 さ t	-9	厚さは 40m毎に現舗装高とオーバーレイ後の基準高の差で算出する。 測定点は車道中心線、車道端及びその中心とする。 幅は、延長 80m毎に1箇所の割とし、延長 80m未満の場合は、2箇所／施工箇所とする。 断面状況で、間隔、測点数を変えることができる。		
						幅 w	-25			
						延 長 L	-100			
						平 坦 性	3m ² プロファイルメーター (σ)2.4mm以下 直読式(足付き) (σ)1.75mm以下			
3	2	7	2		路床安定処理工	基 準 高 ▽	±50	延長 40m毎に1箇所の割で測定。 基準高は、道路中心線及び端部で測定。 厚さは中心線及び端部で測定。		
						施 工 厚 さ t	-50			
						幅 w	-100			
						延 長 L	-200			

維持工事においては、平坦性の項目を省略することができる。

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所
3	2	7	3		置換工	基 準 高 ∇	± 50	施工延長 40m (測点間隔 25mの場合 は 50m) につき 1 箇所、延長 40 m (50m) 以下のものは 1 施工箇所 につき 2 箇所。 厚さは中心線及び端部で測定。	
						置換厚さ t	-50		
						幅 w	-100		
						延 長 L	-200		
3	2	7	4		表層安定処理工 (サンドマット海上)	基 準 高 ∇	特記仕様書に明示	施工延長 10mにつき、1 測点当 たり 5 点以上測定。 w. (ℓ) は施工延長 40mにつき 1 箇所、80m以下のものは 1 施工箇所 につき 3 箇所。 (L) はセンターライン及び表裏法 肩で行う。	
						法 長 ℓ	-500		
						天 端 幅 w	-300		
						天端延長 L	-500		

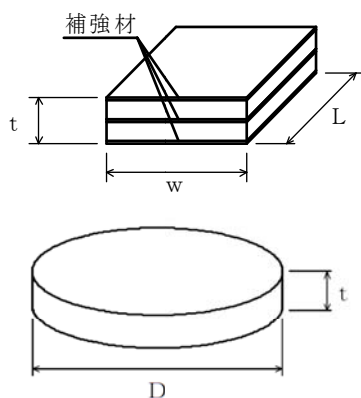
編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所
3	2	7	5		パイルネット工	基 準 高 ∇	± 50	施工延長 40m (測点間隔 25mの場合 は50m) につき1箇所。 厚さは中心線及び両端で掘り起し て測定。 杭については、当該杭の項目に準ず る。	
						厚 さ t	-50		
						幅 w	-100		
						延 長 L	-200		
3	2	7	6		サンドマット工	施工厚さ t	-50	施工延長 40m (測点間隔 25mの場合 は50m) につき1箇所。 厚さは中心線及び両端で掘り起し て測定。	
						幅 w	-100		
						延 長 L	-200		

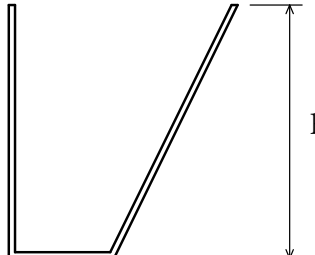
編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	
3	2	7	7		パーチカルドレーン工 (サンドドレーン工) (ペーパードレーン工) (袋詰式サンドドレーン工)	位置・間隔w	±100	100本に1箇所。 100本以下は2箇所測定。1箇所に4本測定。 ただし、ペーパードレーンの杭径は対象外とする。		
						杭 径 D	設計値以上			
						打 込 長 さ h	設計値以上			
					8	締固め改良工 (サンドコンパクション パイル工)	サンドドレーン、 袋詰式サンドドレーン、 サンドコンパクションパイル の砂投入量	—		全本数 計器管理にかえることができる。
										
								※余長は、適用除外		
3	2	7	9		固結工 (粉体噴射攪拌工) (高圧噴射攪拌工) (スラリー攪拌工) (生石灰パイル工)	基 準 高 ▽	-50	100本に1箇所。 100本以下は2箇所測定。 1箇所に4本測定。		
						位置・間隔w	D/4以内			
						杭 径 D	設計値以上	全本数		
						深 度 ℓ	設計値以上			

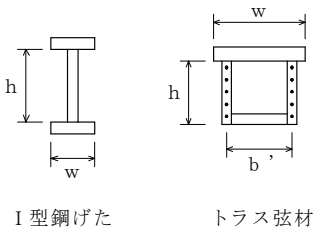
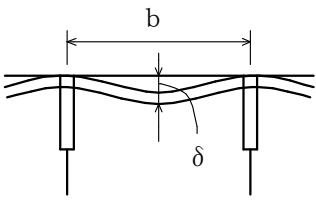
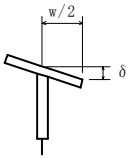
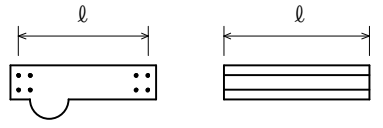
編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所
3	2	10	5	1	土留・仮締切工 (H鋼杭) (鋼矢板)	基 準 高 ∇	± 100	基準高は施工延長 40m (測点間隔 25m の場合は 50m) につき 1 箇所。延長 40m (又は 50m) 以下のものは、1 施工箇所につき 2 箇所。 (任意仮設は除く)	
						根 入 長	設計値以上		
3	2	10	5	2	土留・仮締切工 (アンカー工)	削 孔 深 さ ℓ	設計深さ以上	全数 (任意仮設は除く)	
						配 置 誤 差 d	100		
3	2	10	5	3	土留・仮締切工 (連節ブロック張り工)	法 長 ℓ	-100	施工延長 40m (測点間隔 25m の場合は 50m) につき 1 箇所、延長 40m (又は 50m) 以下のものは 1 施工箇所につき 2 箇所。 1 施工箇所毎	
						延 長 L_1 L_2	-200		
3	2	10	5	4	土留・仮締切工 (締切盛土)	基 準 高 ∇	-50	施工延長 50m につき 1 箇所。 延長 50m 以下のものは 1 施工箇所につき 2 箇所。 (任意仮設は除く)	
						天 端 幅 w	-100		
						法 長 ℓ	-100		

編 章 節 条 枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所
3 2 10 5 5	土留・仮締切工 (中詰盛土)	基 準 高 ∇	-50	施工延長 50mにつき 1 箇所。 延長 50m以下のものは、1 施工箇所につき 2 箇所。 (任意仮設は除く)	
3 2 10 9	地中連続壁工 (壁式)	基 準 高 ∇	± 50	基準高は施工延長 40m (測点間隔 25mの場合は 50m) につき 1 箇所。延長 40m (又は 50m) 以下のものについては 1 施工箇所につき 2 箇所。 変位は施工延長 20m (測点間隔 25mの場合は 25m) につき 1 箇所。延長 20m (又は 25m) 以下のものは 1 施工箇所につき 2 箇所。	
		連壁の長さ l	-50		
		変 位	300		
		壁 体 長 L	-200		
3 2 10 10	地中連続壁工 (柱列式)	基 準 高 ∇	± 50	基準高は施工延長 40m (測点間隔 25mの場合は 50m) につき 1 箇所。延長 40m (又は 50m) 以下のものについては 1 施工箇所につき 2 箇所。 変位は施工延長 20m (測点間隔 25mの場合は 25m) につき 1 箇所。延長 20m (又は 25m) 以下のものは 1 施工箇所につき 2 箇所。	
		連壁の長さ l	-50		
		変 位	D/4 以内		
		壁 体 長 L	-200		

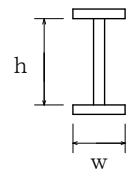
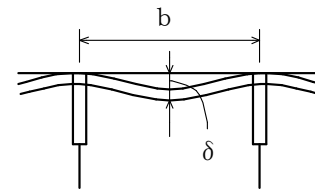
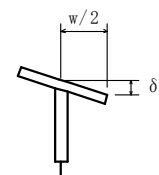
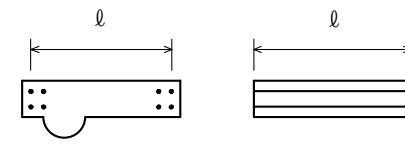
編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所			
3	2	12	1	1	鋳造費 (金属支承工)	上下部構造物との接合用ボルト孔	孔の直径差	0～+2	製品全数を測定。			
							中心距離	センターボスを基準にした孔位置のずれ				
								≦1000mm			1以下	
								>1000mm			1.5以下	
							アンカーボルト用孔	孔の直径			≦100mm	-1～+3
											>100mm	-2～+4
							センターボス	孔の中心距離			JIS B 0403-95 CT13	
								ボスの直径			-1～0	
								ボスの高さ			0～+1	

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所		
3	2	12	1	1	鑄造費 (金属支承工)	上沓の橋軸及び直角方向の長さ寸法	JIS B 0403-95 CT13	製品全数を測定。 ※1) 片面削り加工も含む。 ※2) ただし、ソールプレート接触面の橋軸及び橋軸直角方向の長さ寸法に対してはCT13を適用する。			
						全移動量 ℓ	$\ell \leq 300\text{mm}$			± 2	
							$\ell > 300\text{mm}$			$\pm \ell / 100$	
						組立高さ H	上、下面加工仕上げ			± 3	
							コンクリート構造用			$H \leq 300\text{mm}$	± 3
										$H > 300\text{mm}$	(H/200+3)小数点以下切り捨て
						普通寸法	鑄放し長さ寸法 ※1)、※2)			JIS B 0403-95 CT14	
							鑄放し肉厚寸法※1)			JIS B 0403-95 CT15	
							削り加工寸法			JIS B 0405-91 粗級	
							ガス切断寸法			JIS B 0417-79 B級	
3	2	12	1	2	鑄造費 (大型ゴム支承工)	幅 w	$w, L, D \leq 500$	$0 \sim +5$	製品全数を測定。 平面度：1個のゴム支承の厚さ (t) の最大相対誤差		
							$500 < w, L, D \leq 1500\text{mm}$	$0 \sim +1\%$			
							$1500 < w, L, D$	$0 \sim +15$			
						厚さ t	$t \leq 20\text{mm}$	± 0.5			
							$20 < t \leq 160$	$\pm 2.5\%$			
							$160 < t$	± 4			
						平面度		1			

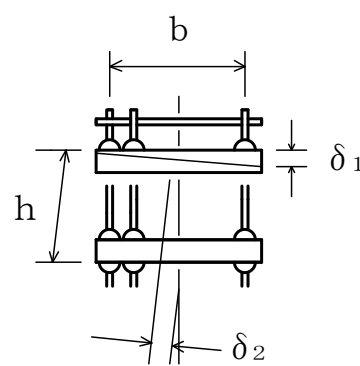
編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所
3	2	12	1	3	仮設材製作工	部 材 部材長 l (m)	$\pm 3 \cdots \cdots \quad l \leq 10$	図面の寸法表示箇所にて測定。	
							$\pm 4 \cdots \cdots \quad l > 10$		
3	2	12	1	4	刃口金物製作工	刃 口 高 さ h (m)	$\pm 2 \cdots \cdots \quad h \leq 0.5$	図面の寸法表示箇所にて測定。	
							$\pm 3 \cdots \cdots \quad 0.5 < h \leq 1.0$		
						外周長 L (m)	$\pm (10+L/10)$		

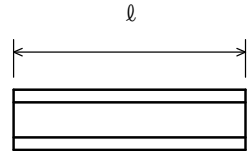
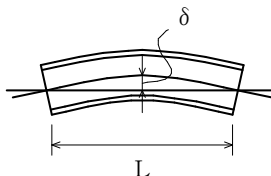
編	章	節	条	枝番	工種	測定項目	規格値	測定基準		測定箇所						
								鋼げた等	トラス・アーチ等							
3	2	12	3	1	桁製作工 (仮組立による検査を実施する場合) (シミュレーション仮組立検査を行う場合)	フランジ幅 w (m) 腹板高 h (m) 腹板間隔 b' (m)	$\pm 2 \dots \dots w \leq 0.5$ $\pm 3 \dots \dots 0.5 < w \leq 1.0$ $\pm 4 \dots \dots 1.0 < w \leq 2.0$ $\pm (3+w/2) \quad 2.0 < w$	主げた・主構 各支点及び各支間中央付近を測定。 床組など構造別に、5部材につき1個抜き取った部材の中央付近を測定。 なお、J I Sマーク表示品を使用する場合は、製造工場の発行するJ I Sに基づく試験成績表に替えることができる。	 I型鋼げた トラス弦材							
										部材精度	板の平面度 δ (mm)	鋼げた及びトラス等の部材の腹板	$h/250$	主げた 各支点及び各支間中央付近を測定。 h : 腹板高 (mm) b : 腹板又はリブの間隔 (mm) w : フランジ幅 (mm)		
												箱げた及びトラス等のフランジ 鋼床版のデッキプレート	$b/150$			
												フランジの直角度 δ (mm)		$w/200$		
												部材長 ℓ (m)	鋼げた	$\pm 3 \dots \dots \ell \leq 10$ $\pm 4 \dots \dots \ell > 10$	原則として仮組立をしない状態の部材について、主要部材全数を測定。	
													トラス、アーチなど	$\pm 3 \dots \dots \ell \leq 10$ $\pm 4 \dots \dots \ell > 10$		
													圧縮材の曲がり δ (mm)	$\ell/1000$	—	主要部材全数を測定。 ℓ : 部材長 (mm)
※規格値の w, ℓ に代入する数値は m 単位の数値である。 ただし、「板の平面度 δ 、フランジの直角度 δ 、圧縮材の曲り δ 」の規格値の h, b, w, ℓ に代入する数値は mm 単位の数値とする。																

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準		測 定 箇 所	
								鋼げた等	トラス・アーチ等		
3	2	12	3	1	桁製作工 (仮組立による検査を実施する場合) (シミュレーション仮組立検査を行う場合)	仮組立精度	全長 L_1 (m) 支間長 L_2 (m)	$\pm(10+L_1/10)$ $\pm(10+L_2/10)$	主げた、主構全数を測定。		
							主げた、主構の中心間距離 B (m)	$\pm 4 \cdots B \leq 2$ $\pm(3+B/2) \cdots B > 2$	各支点及び各支間中央付近を測定。		
							主構の組立高さ h (m)	$\pm 5 \cdots h \leq 5$ $\pm(2.5+h/2) \cdots h > 5$	—	両端部及び中心部を測定。	
							主げた、主構の通り δ (mm)	$5+L/5 \cdots L \leq 100$ $25 \cdots L > 100$	最も外側の主げた又は主構について支点及び支間中央の1点を測定。 L：測線上 (m)		
							主げた、主構のそり δ (mm)	$-5 \sim +5 \cdots L \leq 20$ $-5 \sim +10 \cdots 20 < L \leq 40$ $-5 \sim +15 \cdots 40 < L \leq 80$ $-5 \sim +25 \cdots 80 < L \leq 200$	各主げたについて10～12m間隔を測定。 L：主げたの支間長 (m)	各主構の各格点を測定。 L：主構の支間長 (m)	
							主げた、主構の橋端における出入差 δ (mm)	設計値 ± 10	どちらか一方の主げた（主構）端を測定。		
							主げた、主構鉛直度 δ (mm)	$3+h/1,000$	各主桁の両端部を測定。 h：主桁の高さ (mm)	支点及び支間中央付近を測定。 h：主構の高さ (mm)	
							現場継手部のすき間 δ_1, δ_2 (mm)	設計値 ± 5	主桁、主構の全継手数の1/2を測定。 δ_1, δ_2 のうち大きいもの 設計値が5mm以下の場合、マイナスを認めない。		
<p>※規格値のL, B, hに代入する数値はm単位の数値である。 ただし、「主げた、主構の鉛直度δ」の規格値のhに代入する数値はmm単位の数値とする。</p>											

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	
3	2	12	3	2	桁製作工 (仮組立検査を実施しない場合)	フランジ幅 w (m)	± 2…… w ≤ 0.5 ± 3…… 0.5 < w ≤ 1.0 ± 4…… 1.0 < w ≤ 2.0 ± (3+w/2) …… 2.0 < w	主桁、主構 各支点及び各支間中央付近を測定。 床組など構造別に、5部材につき1 個抜き取った部材の中央付近を測 定。	 I型鋼げた	
						腹板高 h (m)				
						部 材	鋼桁等の部材 の腹板	h / 250	主桁 各支点及び各支間中央付近を測定。 h : 腹板高 (mm) b : 腹板又はリブの間隔 (mm) w : フランジ幅 (mm)	
							箱桁等のフラ ンジ鋼床版の デッキプレー ト	b / 150		
						精 度	フランジの直角度 δ (mm)	w / 200		
部 材 長 ℓ (m)	鋼げた	± 3… ℓ ≤ 10 ± 4… ℓ > 10	主要部材全数を測定。							
<p>※規格値の w, ℓ に代入する数値はm単位の数値である。 ただし、「板の平面度 δ, フランジの直角度 δ の規格値の h, b, w に代入する数値はmm単位の数値とする。</p>										

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	
3	2	12	3	3	桁製作工 (鋼製堰堤製作工(仮組立時))	部材の水平度	10	全数を測定。 (備考) 格：格子型鋼製砂防ダム A：鋼製スリットダム A型 B：鋼製スリットダム B型 L：鋼製スリットダム L型	<p>図 a 格子形鋼製砂防ダム 図 b 鋼製スリットダム A型 図 c 鋼製スリットダム B型 図 d 鋼製L型スリットダム</p>	
						堤 長 L	±30			
						堤 長 ℓ	±10			
						堤 幅 W	±30			
						堤 幅 w	±10			
						高 さ H	±10			
						ベースプレート の高さ	±10			
本体の傾き	±H/500									
3	2	12	4		検査路製作工	部材	部材長 ℓ (m)	$\pm 3 \cdots \cdots \ell \leq 10$ $\pm 4 \cdots \cdots \ell > 10$	図面の寸法表示箇所にて測定。	
						部材	部材長 w (m)	0～+30	製品全数を測定。	
3	2	12	5		鋼製伸縮継手製作工	部材	部材長 w (m)	0～+30	製品全数を測定。	
						仮組立時	組合せる伸縮装置との高さの差 δ ₁ (mm)	設 計 値 ± 4	両端及び中央部付近を測定。	
						仮組立時	フィンガーの食い違い δ ₂ (mm)	± 2		

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	
3	2	12	6		落橋防止装置製作工	部材	部材長 l (m)	$\pm 3 \cdots \cdots l \leq 10$ $\pm 4 \cdots \cdots l > 10$	図面の寸法表示箇所にて測定。	
3	2	12	7		橋梁用防護柵製作工	部材	部材長 l (m)	$\pm 3 \cdots \cdots l \leq 10$ $\pm 4 \cdots \cdots l > 10$	図面の寸法表示箇所にて測定。	
3	2	12	8		アンカーフレーム製作工	仮組立時	上面水平度 δ_1 (mm)	$b/500$	軸心上全数測定。	
							鉛直度 δ_2 (mm)	$h/500$		
							高さ h (mm)	± 5		

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	
3	2	12	9		プレビーム用桁製作工	部 材	フランジ幅 w (m) 腹板高 h (m)	$\pm 2 \cdots w \leq 0.5$ $\pm 3 \cdots$ $0.5 < w \leq 1.0$ $\pm 4 \cdots$ $1.0 < w \leq 2.0$ $\pm (3 + w / 2) \cdots 2.0 < w$	各支点及び各支間中央付近を測定。	 I型鋼げた
							フランジの直角度 δ (mm)	$w / 200$	各支点及び各支間中央付近を測定。	
							部材長 l (m)	$\pm 3 \cdots l \leq 10$ $\pm 4 \cdots l > 10$	原則として仮組立をしない部材について主要部材全数で測定。	
							仮組立時 主げたのそり δ	$-5 \sim +5$ $\cdots L \leq 20$ $-5 \sim +10$ $\cdots 20 < L \leq 40$	各主げたについて 10～12m間隔を測定。	
3	2	12	10		鋼製排水管製作工	部 材	部材長 l (m)	$\pm 3 \cdots l \leq 10$ $\pm 4 \cdots l > 10$	図面の寸法表示箇所を測定。	

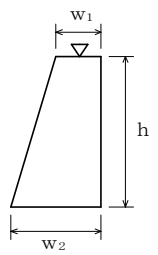
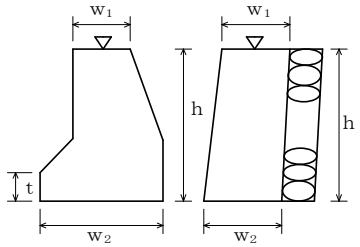
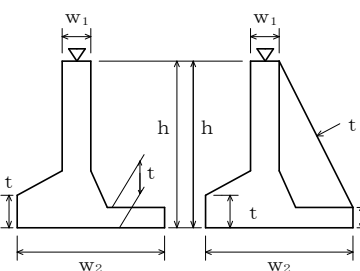
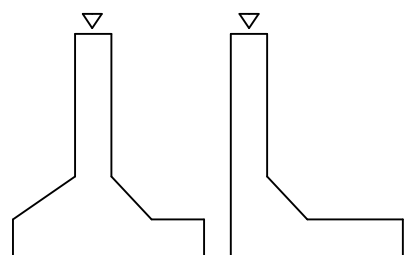
編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所
3	2	12	11		工場塗装工	塗 膜 厚	<p>a. ロット塗膜厚の平均値は、目標塗膜厚合計値の90%以上。</p> <p>b. 測定値の最小値は、目標塗膜厚合計値の70%以上。</p> <p>c. 測定値の分布の標準偏差は、目標塗膜厚合計値の20%を超えない。ただし、測定値の平均値が目標塗膜厚合計値より大きい場合はこの限りではない。</p>	<p>外面塗装では、無機ジグリックペイントの塗付後と上塗り終了時に測定し、内面塗装では内面塗装終了時に測定。</p> <p>1ロットの大きさは、500m²とする。</p> <p>1ロット当たり測定数は25点とし、各点の測定は5回行い、その平均値をその点の測定値とする。</p>	

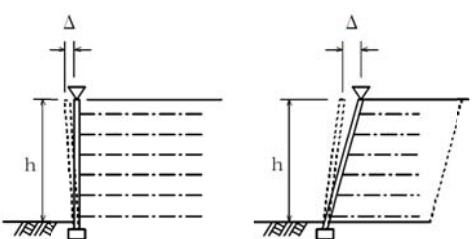
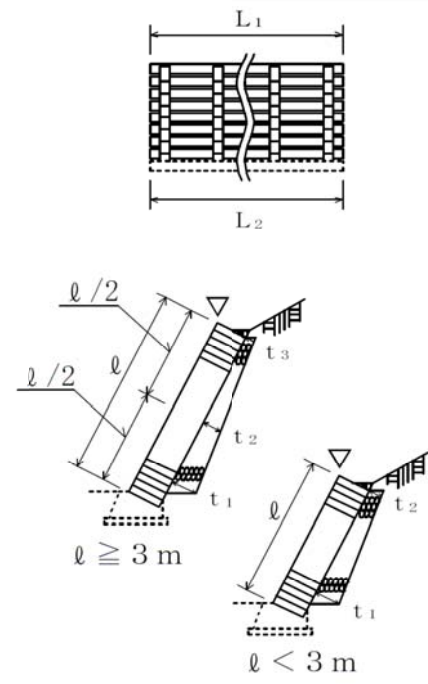
編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所
3	2	13			架設工（鋼橋） （クレーン架設） （ケーブルクレーン架設） （ケーブルエレクション架設） （架設桁架設） （送出し架設） （トラバークレーン架設）	全長 L_1 (m) 支間長 L_2 (m)	$\pm (20+L_1/5)$ $\pm (20+L_2/5)$	各けた毎に全数測定。 L ：主げた・主構の支間長(m)	
						通 り δ (mm)	$\pm (10+2L/5)$	L ：主げた・主構の支間長(m)	
						そ り δ (mm)	$\pm (25+L/2)$	主げた、主構を全数測定。 L ：主げた・主構の支間長(m)	
						※主げた、主構の 中心間距離 B (m)	$\pm 4 \dots \dots$ $B \leq 2$ $\pm (3+B/2) \dots \dots$ $B > 2$	各支点及び各支間中央付近を測定。 ※は仮組立検査を実施しない工事に適用する（以下も同じ）。	
						※主げたの橋端に おける出入差 δ (mm)	設計値 ± 10	どちらか一方の主げた（主構）端を測定。	
						※主げた、主構の 鉛直度 δ (mm)	$3+h/1,000$	各主げたの両端部を測定。 h ：主げた・主構の高さ(mm)	
						※現場継手部 のすき間 δ_1, δ_2 (mm)	設計値 ± 5	主げた、主構の全継手数の1/2を測定。 δ_1, δ_2 のうち大きいもの 設計値が5mm以下の場合、マイナス側については設計値以上とする。	
<p>※規格値のL, Bに代入する数値はm単位の数値である。 ただし、「主げた、主構の鉛直度δ」の規格値のhに代入する数値はmm単位の数値とする。</p>									

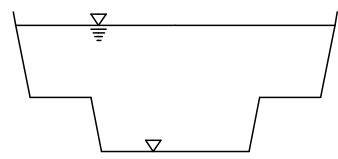
編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	
3	2	13			架設工（コンクリート橋） （クレーン架設） （架設桁架設） 架設工支保工 （固定） （移動） 架設桁架設 （片持架設） （押出し架設）	全 長・支 間	—	各桁毎に全数測定。		
						桁の中心間距離	—	一連毎の両端及び支間中央について各上下間を測定。		
						そ り	—	主桁を全数測定。		
3	2	14	2	1	植生工 （種子散布工） （張芝工） （筋芝工） （市松芝工） （植生シート工） （植生マット工） （植生筋工） （人工張芝工） （植生穴工）	切土法 長 l	$l < 5\text{ m}$	-200	施工延長 40m（測点間隔 25mの場合は 50m）につき 1 箇所、延長 40m（又は 50m）以下のものは 1 施工箇所につき 2 箇所。	
							$l \geq 5\text{ m}$	法長の - 4%		
						盛土法 長 l	$l < 5\text{ m}$	-100		
							$l \geq 5\text{ m}$	法長の - 2%		
						延 長 L		-200	1 施工箇所毎	
						3	2	14	2	
$l \geq 5\text{ m}$	法長の - 4%									
厚 さ t	$t < 5\text{ cm}$	-10	施工面積 200m ² につき 1 箇所、面積 200m ² 以下のものは、1 施工箇所につき 2 箇所。 検査孔により測定。							
	$t \geq 5\text{ cm}$	-20								
但し、吹付面に凹凸がある場合の最小吹付厚は、設計厚の 50%以上とし、平均厚は設計厚以上。										
延 長 L		-200	1 施工箇所毎							

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	
3	2	14	3		吹付工（仮設を含む） （コンクリート） （モルタル）	法長 l	$l < 3\text{ m}$	-50	施工延長 40mにつき 1箇所、40m以下のものは 1施工箇所につき 2箇所。 測定断面に凹凸があり、曲線法長の測定が困難な場合は直線法長とする。	
							$l \geq 3\text{ m}$	-100		
						厚さ t	$t < 5\text{ cm}$	-10	200m ² につき 1箇所以上、200m ² 以下は 2箇所をせん孔により測定。	
							$t \geq 5\text{ cm}$	-20		
							但し、吹付面に凹凸がある場合の最小吹付厚は、設計厚の 50%以上とし、平均厚は設計厚以上			
						延 長 L	-200	1 施工箇所毎		

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	
3	2	14	4	1	法枠工 (現場打法枠工) (現場吹付法枠工)	法長 l	$l < 10m$	-100	施工延長 40m (測点間隔 25mの場合は 50m) につき 1 箇所、延長 40m (又は 50m) 以下のものは 1 施工箇所につき 2 箇所。 枠延長 100m につき 1 箇所、枠延長 100m 以下のものは 1 施工箇所につき 2 箇所。 吹付枠中心間隔 a ± 100 延長 L -200 1 施工箇所毎	
						法長 l	$l \geq 10m$	-200		
						幅 w		-30		
						高 さ h		-30		
						吹付枠中心間隔 a		± 100		
						延 長 L		-200		
3	2	14	4	2	法枠工 (プレキャスト法枠工)	法長 l	$l < 10m$	-100	施工延長 40m (測点間隔 25mの場合は 50m) につき 1 箇所、延長 40m (又は 50m) 以下のものは 1 施工箇所につき 2 箇所。 延長 L -200 1 施工箇所毎	
						法長 l	$l \geq 10m$	-200		
						延 長 L		-200		
3	2	14	6		アンカー工	削孔深さ l		設計値以上	全数 (任意仮設は除く)	<p>$d = \sqrt{x^2 + y^2}$</p>
						配置誤差 d		100		
						せん孔方向 θ		± 2.5 度		

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所
3	2	15	1		(一般事項) 場所打擁壁工	基 準 高 ∇	± 50	施工延長 40m (測点間隔 25mの場合は50m) につき1箇所、延長 40m (又は50m) 以下のものは1施工箇所につき2箇所。	
						厚 さ t	-20		
						裏 込 厚 さ	-50		
						幅 w_1, w_2	-30		
						高 さ h	$h < 3\text{m}$		
							$h \geq 3\text{m}$	-100	
延 長 L	-200	1施工箇所毎							
									
3	2	15	2		プレキャスト擁壁工	基 準 高 ∇	± 50	施工延長 40m (測点間隔 25mの場合は50m) につき1箇所、延長 40m (又は50m) 以下のものは1施工箇所につき2箇所。	
						延 長 L	-200		

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	
3	2	15	3		補強土壁工 (補強土(テールアルメ)壁工法) (多数アンカー式補強土工法) (ジオテキスタイルを用いた補強土工法)	基準高 ∇	± 50	施工延長 40m (測点間隔 25mの場合は 50 m) につき 1 箇所、延長 40m (又は 50m) 以下のものは 1 施工箇所につき 2 箇所。		
						高さ h	$h < 3\text{m}$			-50
							$h \geq 3\text{m}$			-100
						鉛直度 Δ	$\pm 0.03\text{h}$ かつ ± 300 以内			
						控え長さ	設計値以上			
						延長 L	-200			1 施工箇所毎
3	2	15	4		井桁ブロック工	基準高 ∇	± 50	施工延長 40m (測点間隔 25mの場合は 50m) につき 1 箇所、延長 40m (又は 50m) 以下のものは 1 施工箇所につき 2 箇所。		
						法長 l	高さ $h < 3\text{m}$			-50
							高さ $h \geq 3\text{m}$			-100
						厚さ t_1, t_2, t_3	-50			
						延長 L_1, L_2	-200			1 施工箇所毎

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目		規 格 値		測 定 基 準	測 定 箇 所	
3	2	16	3	1	浚渫船運転工 (ポンプ浚渫船)	基準高▽	電気船	200ps	+200	-800	延長方向は、設計図書により指定された測点毎。 横断方向は、5m毎。 また、斜面は法尻、法肩とし必要に応じ中間点も加える。ただし、各測定値の平均値の設計基準高以下であること。	
								500ps	+200	-1000		
								1000ps	+200	-1200		
							ディーゼル船	250ps	+200	-800		
								420ps 600ps	+200	-1000		
								1350ps	+200	-1200		
							幅		-200			
							延長		-200			
							3	2	16	3		
幅		-200										
延長		-200										

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所
3	2	18	2		床版工	基 準 高 ▽	±20	基準高は、1 径間当たり 2 箇所（支点付近）で、1 箇所当たり両端と中央部の 3 点、幅は 1 径間当たり 3 箇所、厚さは型枠設置時におおむね 10m ² に 1 箇所測定。 (床版の厚さは、型枠検査をもって代える。)	
						幅 w	0～+30		
						厚 さ t	-10～+20		
						鉄筋のかぶり	設計値以上		
						鉄筋の有効高さ	±10		
						鉄 筋 間 隔	±20		
	上記、鉄筋の有効高さがマイナスの場合	±10	1 径間当たり 3 箇所（両端及び中央）測定。 1 箇所の測定は、橋軸方向の鉄筋は全数、橋軸直角方向の鉄筋は加工形状毎に 2 m の範囲を測定。						